

# 岡山県金融経済動向

## 1. 概 況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は概ね堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。住宅投資も振れを伴いながら堅調に推移している。一方、公共投資は減少傾向にある。

県内主要製造業の生産活動は、堅調な内外需要を背景に緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は基調としては緩やかな増加傾向にあり、改善の動きが続いている。

## 2. 実体経済

### (1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、19/1月の販売動向をみると、百貨店売上高は、暖冬の影響等から食料品や衣料品が低調であったものの、身の回り品がブランド品を中心に堅調に推移したことから、前年比マイナス幅が縮小した。スーパー売上高も、前年の落ち込みの反動もあって、衣料品を中心に前年比マイナス幅を縮小させている。このほか、家電販売は、パソコンが落ち込んだものの、大型・薄型テレビの高伸が続いているほか、白物家電も堅調で、全体では2か月振りに前年を上回った。また、旅行取扱高は、国内旅行、海外旅行ともに団体客を中心に動意がみられ、3か月振りに前年を上回った。

一方、乗用車販売は、軽自動車が高い伸びを続けているほか、普通車も前年を上回ったものの、小型車の販売が低調に推移しているため、全体では2か月連続で前年を下回った。

この間、主要観光地への入り込みをみると、多くの先では暖冬により客足が好調に推移したほか、団体客の入りが増加した先もあって、全体では前年を上回った。

## ( 2 ) 設備投資

県内企業の設備投資は、概ね堅調に推移している。

すなわち、18年度の設備投資計画(18/12月短観調査)は、前年の大型投資の反動等から、4年振りの減少計画(前年比: 13.7%)にある。もっとも、前回調査(18/9月)からの修正状況をみると、電力・ガス、サービス、飲食店・宿泊等の非製造業を中心に、小幅の上方修正となった。

業種別にみると、製造業(同: 11.9%)では、鉄鋼、化学(能力増強等)、一般機械(拠点整備等)が増加計画にあるが、石油・石炭製品、金属製品、輸送用機械を中心に前年の大型投資の反動が大きく、前年を1割強下回る計画となっている。また、非製造業(同: 16.7%)でも、小売、建設が前年を上回る計画にあるが、電力・ガス、運輸での前年の大型投資の反動に加え、卸売、リース等でも減少計画となっていることから、前年を2割弱下回る計画となっている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、18/7~9月に高い伸びとなったあと、足もとは減少している(前年比: 18/7~9月+65.0% 10~12月 24.1%)。

## ( 3 ) 住宅投資

最近の県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、足もとは前年を下回ったものの、基調的には、月々の振れを伴いながら堅調に推移している。すなわち利用関係別にみると、持ち家は一次取得者を中心に堅調に推移している。また、貸家も土地資産の有効活用等の動きもあって底堅く推移している。一方、マンションは、足もとを均してみれば前年を下回っている。

## ( 4 ) 公共投資

公共投資は減少傾向にある。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、19/1月は、「国」、「県」が前年割れとなったが、「その他の公共的団体」、「独立行政法人等」、「市町村」が大型工事の発注等から前年を大幅に上回ったため、全体では2か月連続で前年を上回った(前年比: 18/12月+2.4% 19/1月+73.7%)。

## ( 5 ) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、19/1月の県内輸出(通関実績)をみると、西欧、中東欧・ロシア向けが自動車(完成車)を中心に増加しているほか、アジア向けも化学、鉄鋼を中心に持ち直しているため、全体では13か月連続で前年を上回った(前年比: 18/12月+24.7% 19/1月+39.3%)。

## (6) 生産・出荷・在庫

18/12月の県内鉱工業生産指数(直近計数)は、鉄鋼が前年の落ち込みの反動もあって高い伸びとなったほか、輸送用機械、化学などで上昇し、全体では3か月連続で前年比上昇した(前年比:18/11月+3.0% 12月+3.4%)。

季調済前月比でも、輸送用機械、化学を中心に、3か月連続で上昇した(季調済前月比:18/11月+1.2% 12月+0.6%)。

この間、在庫指数は、輸送用機械、鉄鋼を中心に、7か月連続で前年を上回った(前年比:18/11月+4.9% 12月+7.0%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けの完成車を中心に、高操業を続けている。また、鉄鋼、石油精製、石油化学では、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。電気機械では、電子部品を中心に、全体として高めの生産を続けている。このほか、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。農機具でも低水準ながら、持ち直しの動きが続いている。また、繊維でも、国内需要の低迷や海外への生産シフト等から生産は低水準であるが、足もとでは持ち直の動きがみられる。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い一部の先では、残業等による生産対応を続けている。

## (7) 雇用・所得

労働需給面では、18/12月の所定外労働時間は、高い伸びを続けている(前年比:18/11月+7.5% 12月+9.1%)。こうしたもとで、19/1月の有効求人倍率は、高水準を続けている(18/12月1.43倍 19/1月1.46倍)。

雇用面をみると、解雇者数は足もと若干増加しているが、常用労働者数は、緩やかに増加しており(前年比:18/11月0.0% 12月+0.4%)、雇用保険受給者数は前年を下回って推移している。このように、県内の雇用関連指標は改善傾向にある。

賃金をみると、18/12月の一人当たり現金給与総額は、前年を上回った(前年比:18/11月 3.4% 12月+1.8%)。

この結果、雇用者所得は緩やかな増加傾向にある。

## (8) 物 価

最近の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)をみると、教養娯楽の前年比低下が続いているが、光熱・水道、交通・通信等が前年を上回って推移していることから、全体では前年比プラスが続いている。

### ( 9 ) 企業倒産

19/1月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数（15件＜前年19件＞）は前年を下回ったものの、負債総額（136億円＜同50億円＞）は前年を上回った。

## 3 . 金 融

### ( 1 ) 実質預金

19/1月の県内実質預金をみると、公金預金の前年比プラス幅が縮小したものの、個人預金は、預かり資産へのシフトが続く中で、前年比プラス幅が小幅ながら上昇した。また、法人預金の前年比マイナス幅も縮小したため、実質預金全体では前年比マイナス幅が若干縮小した（月中平残前年比：18/12月0.5% 19/1月0.2%）。

なお、2月21日の金融市場調節方針の変更後、地元金融機関では預金金利を引き上げる動きがみられている。

### ( 2 ) 貸 出

19/1月の県内貸出をみると、個人向けは住宅ローンを中心に前年比プラス幅が若干拡大したほか、企業向けも設備資金を中心に小幅の伸びが続いている。もっとも、地公体向けの前年比伸び率が鈍化したため、貸出全体の伸び率は前年比プラス幅が縮小した（月中平残前年比：18/12月+1.3% 19/1月+0.8%）。

### ( 3 ) 貸出約定平均金利

19/1月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、2か月振りに前月比低下した。一方、ストック金利（同）は10か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

## 主要製造業の生産動向

業 種	足もとの動向
自動車	高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車が一部車種の他工場への生産移管により減少しているほか、軽自動車も、モデルチェンジ効果や他社向け供給を継続しているものの、一部車種の販売台数減少等から生産水準が若干低下している。輸出向け生産は、KDが現地生産へのシフト等から低調に推移しているものの、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、欧州・北米向けも新型車投入等から高操業にある。 この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。
造船	高操業が続いている。 大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業機械向け受注も堅調なことから、高操業を続けている。 この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。
石油精製	暖冬の影響等から一部製品で需要が弱含んでいるものの、全体としては高めの生産を続けている。 製品別にみると、ナフサは、石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産となっている。ガソリンは、需要がやや弱含んでいることもあって生産水準がやや低下している。軽油は、需要は底堅く、高めの生産水準にある。また、灯油は、暖冬の影響から需要が弱く、生産水準が引き下げられている。重油は、足もとは供給減から海外市況が若干持ち直す中、電力向けのスポット需要もみられたが、基調として需要は低調に推移しており、生産も減少傾向にある。
石油化学	堅調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。 基礎原料のエチレンは、末端樹脂需要が堅調に推移する中、高めの生産を継続している。 製品別にみると、ポリエチレンは、一部製品では市況が軟化しており、生産水準が幾分低下しているものの、プラスチックメーカー、自動車部品・家電製品向けを中心に需要は全体として堅調に推移している。塩ビ樹脂は、建設向けが堅調なほか、設備修理の終了もあって生産量が持ち直している。ポリスチレンは、需要は弱含んでいるが、定期修理を控えた前倒し生産もあって足もとの生産は持ち直している。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。 製品別にみると、薄板類は、自動車・家電メーカー向けの高付加価値品が好調なことから、全体としては高めの生産水準となっている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、民間建設向け需要が堅調なことから、高めの生産水準にある。棒鋼類は、自動車向けは好調に推移している。一方、建設向けは、需要は堅調ながら、定期修理の影響もあって、足もと生産水準が幾分低下している。
耐火物	大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	全体として高めの生産を続けている。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連向けの受注が持ち直しているほか、携帯電話向け受注も堅調に推移しており、全体としては高めの生産を続けている。スイッチは、携帯電話向けを中心に、高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、春の需要期に向けて、新製品を中心に足もとの生産が持ち直している。各種制御機器は、生産移管の影響等から生産は減少している。
織 維	全体として生産は低水準ながら、持ち直しの動きがみられる。 製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合等から生産は低水準ながら、事務服向け等を中心に末端需要が持ち直しており、生産量は幾分増加している。また、ジーンズ、作業服は、高付加価値製品の一部に持ち直しの動きがみられるが、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、需要期に向けて、生産量が持ち直している。
工作機械	高操業が続いている。 NC旋盤は、自動車関連メーカーを中心に高めの受注残を抱えており、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。 こうした状況下、生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。
農 機 具	全体として生産は低水準ながら、持ち直しの動きが続いている。 製品別にみると、コンバインは、端境期にあるため、他の農機具の生産にシフトしており、低水準の生産が続いている。携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調なことから、持ち直しの動きが続いている。